

No.	号	執筆者等	思い
6	1988年8月号	小島清文	日本は、あの時、心から平和国家として再出発することを願い、2度と武器を取らぬことを誓ったのである。そして、わが国は憲法前文に「平和を愛する・・・(途中略)・・・。しかし、新憲法制定も束の間に、朝鮮戦争を境にして、理想は理想だが、「いざという時」に自らを守ることは許されてよいのではないか、という正当防衛論が、戦場の経験も戦争の本当の苦しみも知らぬ元将軍や老政治家たちの間からすぐ出てきた。(機関紙不戦No.6、1988年8月)